

札幌市観光産業経済効果調査  
報告書  
概要版

平成12年10月

株式会社北海道二十一世紀総合研究所

## 目次

1．北海道民の観光行動	1
1．1．観光行動の形態	1
1．2．札幌市民の観光行動	2
1．3．札幌市以外に居住する道民の観光行動	9
2．道外からの観光客	13
2．1．道外からの観光客数	13
3．観光による消費	16
3．1．札幌市民による札幌市での観光消費額	16
3．2．札幌市以外に居住する道民の観光消費額	18
3．3．道外客の観光消費額	20
3．4．札幌市での総観光消費額	22
3．5．北海道に占める札幌市での観光の位置付け	24
4．観光と経済波及効果	25
4．1．生産波及効果	25
4．2．所得形成効果	30
4．3．経済規模と就業者数	35
付1．調査方法	37
付2．調査期間および調査日時	38
付3．観光モニターの構成	39
付4．回収結果	40

# 1 . 北海道民の観光行動

## 1 . 1 . 観光行動の形態

本調査では、札幌市民および札幌市以外に居住する道民の観光行動と消費の把握を、1人当たりを単位としてではなく、世帯単位で行っている。

また、本調査では、下の表のように観光行動の形態を「日帰りドライブ型」、「日帰り行楽型」、「1泊慰安旅行型」、「1泊行楽型」、「多数泊旅行型」の5つに分類し、これらの観光行動について、札幌市民を含めた道民世帯がどのように行なっているかを把握することとした。

なお、仕事などに観光を兼ねた場合も、観光部分の消費は調査の範囲としてとらえている。

観光行動の形態

観光行動の形態	説 明
日帰りドライブ型	ドライブを第一目的とする日帰りの観光・レジャー。行動範囲は居住している市町村の外まで行くことを前提とし、市町村内でのドライブについては観光・レジャーに含めない。
日帰り行楽型	居住している市町村の範囲内外を問わず一定の場所に行楽などを目的に滞在すること、あるいは入場料、入館料、施設利用料などの料金を支払い、日帰りで利用した場合。ただし、パチンコ、競馬などのギャンブルは除く。
1泊慰安旅行型	慰安、静養などのために温泉などの宿に1泊することを主な目的とする旅行や、ドライブを目的とする1泊旅行。
1泊行楽旅行型	日帰り行楽型と同様に行楽を目的とする1泊旅行。
多数泊旅行型	慰安、静養、行楽を目的とした2泊以上の旅行。

注) 仕事などに観光を兼ねた場合も、観光部分の消費は調査の範囲としてとらえている。

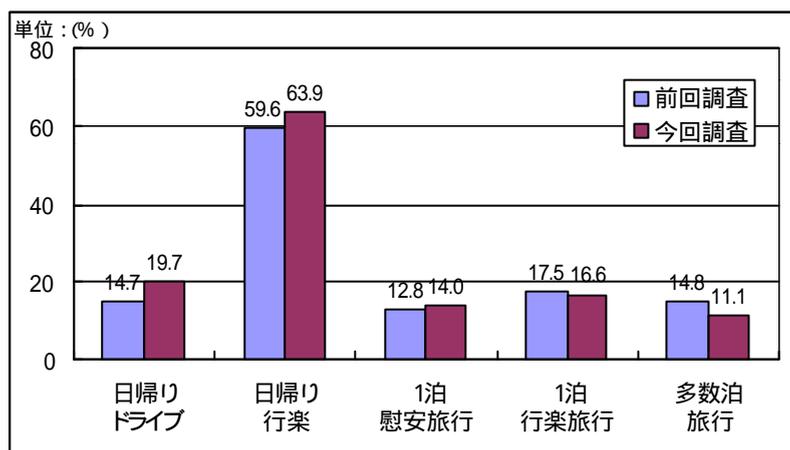
## 1.2. 札幌市民の観光行動

### 札幌市民世帯が行っている観光行動

札幌市民世帯による観光行動で最も多いものは、「日帰り行楽型」であり、1ヶ月に平均63.9%の世帯が行っている。次いで多い観光行動は「日帰りドライブ型」の19.7%となっている。このように、札幌市民世帯が主に行なっている観光行動は、日帰り観光、特に観光目的地で行楽をしたり、観光・レジャー施設を利用する観光であることがわかる。

また、平成5年から平成6年にかけて実施された前回調査との比較では、日帰り観光を行う世帯が増加しているものの、宿泊観光を行う世帯は減少しており、観光行動にかける期間の短縮化が進んでいるといえる。

各形態の観光行動を1ヶ月に行っている札幌市民世帯の割合



注) 前回調査は平成5年10月から平成6年9月にかけて実施されている。

次に、札幌市民世帯が行う観光行動について、観光パターンごとの月別変動からみると、「日帰りドライブ型」は8月に行う世帯が最も多く、全世帯の32.0%となっている。次いで7月、5月の順となっており、4月から10月にかけて行う世帯が多くなっている。一方で、12月から2月にかけては少なく10.0%前後となっている。

「日帰り行楽型」は5月から10月にかけてと2月に行う世帯が多く、60%以上の世帯がこの時期に行っている。これら以外の月も50%以上となっており、非常に高い水準で推移していることが分かる。

「1泊 慰安旅行型」は10月が18.1%と最も多く、次いで2月が17.1%となっている。しかしながら時期による変動は少なく、いずれの月も15%前後の水準で推移している。

「1泊 行楽旅行型」は8月が27.5%と最も多く、次いで9月が21.6%となっているなど

5月から10月にかけての時期に行く世帯が多くなっている。一方で、少ない時期は11月から4月にかけてであり、特に4月は8.1%と非常に低くなっている。

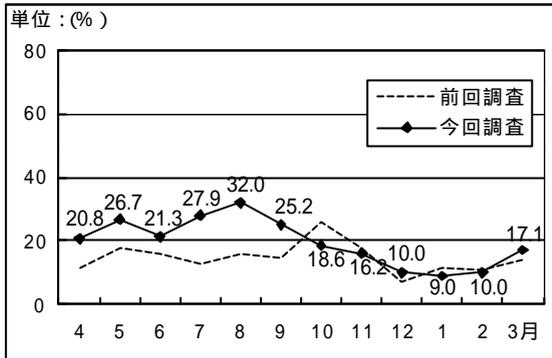
「多数泊旅行型」は、夏休みがある8月に行く世帯が最も多く、22.5%となっている。このほか、5月、1月など長期休暇のある時期に多くなっている。

全体を通してみると、春から秋にかけての時期に観光を行うことが多くなり、秋から冬にかけての時期に少なくなる傾向がある。また、いずれの観光パターンにおいても4月は観光を行うことが少なく、冬期を下回るケースも見受けられる。また、1泊旅行においては、目的の違いによる差はあまりみられないのに対して、日帰り観光においては、その差が大きく、ドライブを主目的とした観光よりも、何らかの行楽を目的とした観光が中心となっていることがうかがえる。

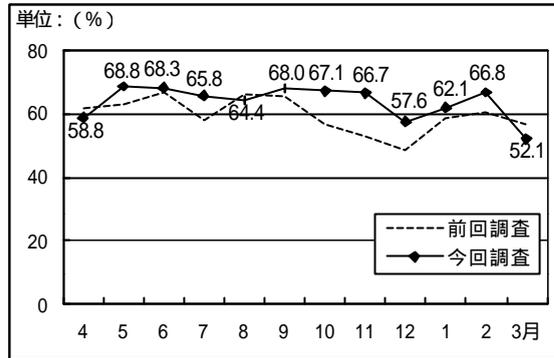
前回調査と比較すると、「日帰りドライブ型」は前回の調査では10月がピークとなっていたが、4月から9月にかけて行く世帯が大幅に増加しており、いずれの月も10月を上回る結果となっている。また、「日帰り行楽型」は、10月から2月にかけてなど、参加世帯が少なかった時期の増加が目立っており、季節変動が平準化してきていることが見受けられる。このほか、参加世帯の減少が目立つ「多数泊旅行型」の観光は、8月に次いで参加世帯が多かった5月の減少が大きくなっている。

各形態の観光行動を行なっている札幌市民世帯

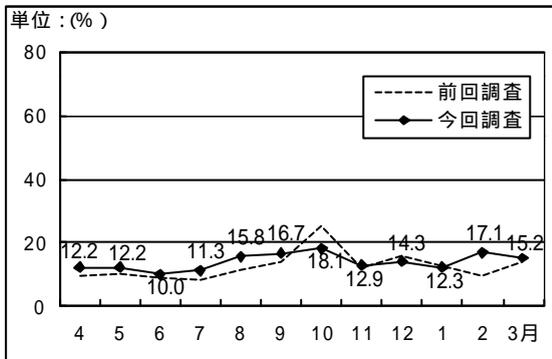
「日帰りドライブ型」



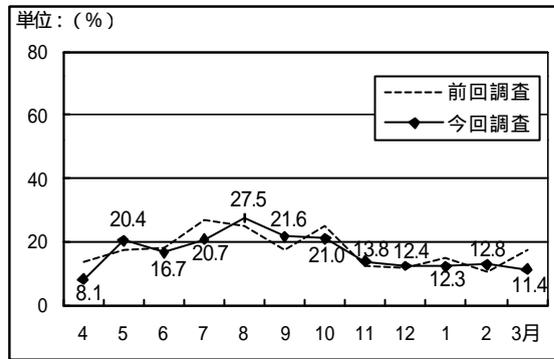
「日帰り行楽型」



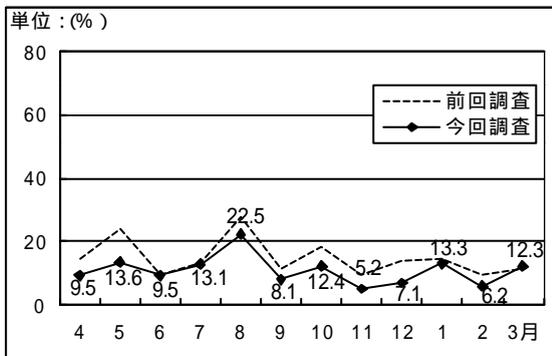
「1泊慰安旅行型」



「1泊行楽型」



「多数泊旅行型」



注) 図中の数値は今回調査の参加率。

## 札幌市民世帯が1年間に行う観光行動の回数

次に、各形態の観光行動を札幌市民世帯が、それぞれ1年間に何回行っているのかをみる。

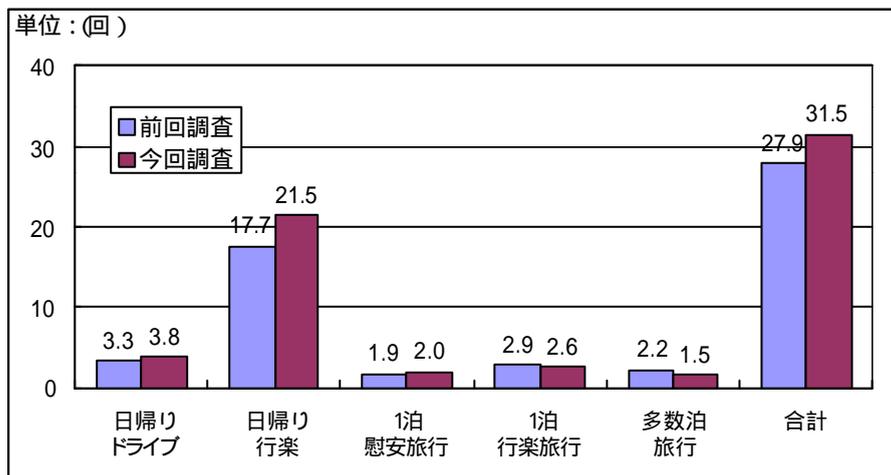
札幌市民世帯は、1世帯当たり平均で、「日帰りドライブ型」を3.8回、「日帰り行楽型」を21.5回、「1泊慰安旅行型」を2.0回、「1泊行楽型」を2.6回、そして「多数泊旅行型」を1.5回行っている。これらを足し合わせると31.5回となり、札幌市民世帯は、1年間に平均で32回の観光行動を行なっていることになる。

これら観光の目的地について、札幌市内および市外の別にみると、札幌市での観光回数が15.9回とほぼ半数を占めている。これを観光形態別にみると、およそ9割が「日帰り行楽型」によるものとなっている。

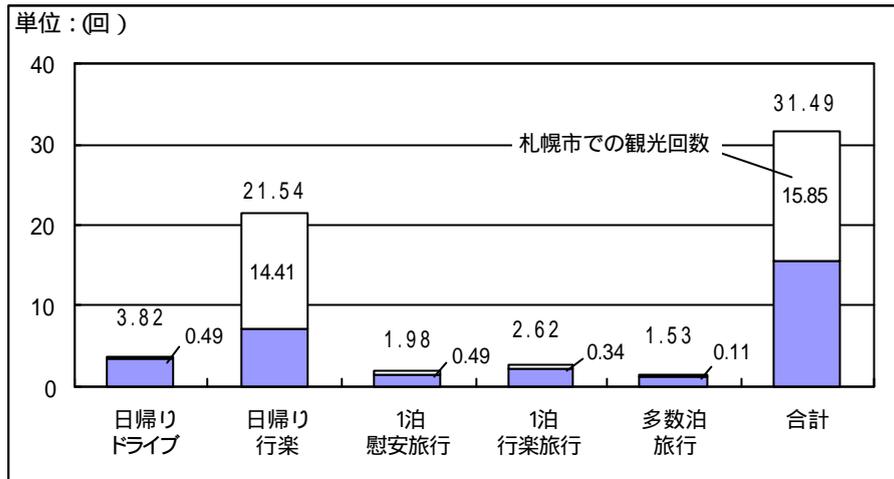
前回調査との比較では、全体の観光行動が3回ほど増えている。観光形態別にみると、「日帰り行楽型」が3.8回増えているなど、日帰り観光の回数が4.3回増加しているが、宿泊観光の回数は前回調査から0.9回の減少となっている。

このように札幌市民世帯では、日帰り観光、特に「日帰り行楽型」を行う回数が増加している。しかし、一方で、比較的遠距離への観光である宿泊観光を行う回数はやや減少しており、札幌市民においては、比較的近距离への何らかの目的を持った観光行動に対する需要が高まってきていることがうかがえる。

札幌市民世帯が1年間に行う各形態の観光行動の回数



### 札幌市内および市外での1世帯当たり観光回数

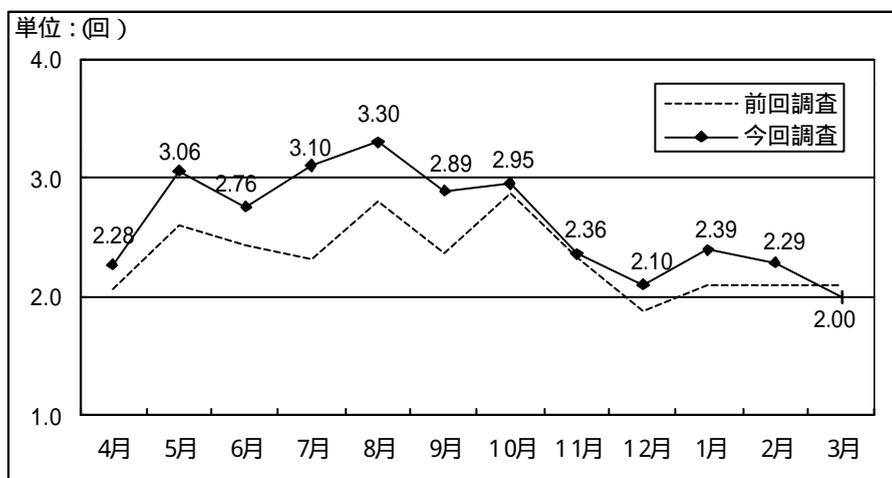


### 札幌市民世帯が各月に行う観光行動の回数

観光を行った回数を月別にみると、8月が3.30回と最も多く、次いで7月の3.10回、5月の3.06回、10月の2.95回と続いている。一方、11月から4月にかけては1世帯当たりの観光回数が2.2回前後と少なくなっている。

前回調査と比較すると、前回の調査でピークの観光回数となっていた10月は今回の調査でも同程度の水準となっているが、5月、7月および8月の観光回数が10月を上回るなど、5月から9月にかけての観光回数が大きく増加しており、札幌市民世帯の観光は春から秋にかけて平均的に行われてきていることがうかがえる。

### 札幌市民世帯が各月に行う観光行動の回数



注) 図中の数値は今回調査の観光回数。

## 目的の地域と内容

ここでは、北海道全域を道央圏、道南圏、道北圏、オホーツク圏、十勝圏、釧路・根室圏の6圏域に分類し、札幌市民が各観光パターンにおいて、どこに訪れているのか、また、どのような内容の観光を行っているのかをみる。

「日帰りドライブ型」では石狩支庁が中心となっているものの、後志支庁、空知支庁、胆振支庁への観光も多くなっており、道央圏を対象とした観光となっていることがうかがえる。一方、「日帰り行楽型」では訪問先が石狩支庁に集中しており、札幌市を中心とした観光となっていることがうかがえる。同じ日帰り観光でもドライブを中心とした観光の方が行動範囲が広がっているといえる。

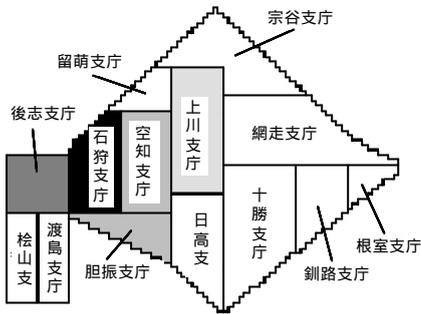
1泊観光では、日帰り観光に比べて石狩支庁への集中はみられず、行動範囲も十勝支庁、渡島支庁、網走支庁へと広がるが、「1泊慰安旅行型」では石狩支庁、胆振支庁、後志支庁が中心であり、札幌市およびその周辺での観光が多くなっている。観光内容が多様となる「1泊行楽旅行型」では、「1泊慰安旅行型」と比べて後志支庁への訪問割合こそ高まっているが、道央圏で観光するケースは少なくなっており、渡島支庁、上川支庁、網走支庁など、より遠距離にある地域へ訪問するケースが多くなっている。

「多数泊旅行型」になると行動範囲は全道に広がるようになり、後志支庁、胆振支庁といった札幌市の近隣支庁に加えて、渡島支庁、上川支庁、網走支庁のウエイトが高くなっている。

観光行動の内容についてみると、どの観光形態においても「温泉・湯治」が多くなっている。その他のものに注目すると、「日帰り行楽型」では「映画館、演劇、音楽会」や「ゴルフ・テニス」が、「1泊行楽旅行型」では「キャンプ・オートキャンプ」が、「多数泊旅行型」では「景勝・旧跡めぐり」が多くなっており、旅行期間の長さの違いによる特色が現れている。

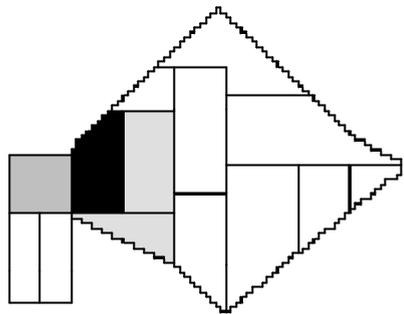
札幌市民の観光における目的地の割合

< 日帰りドライブ型 >



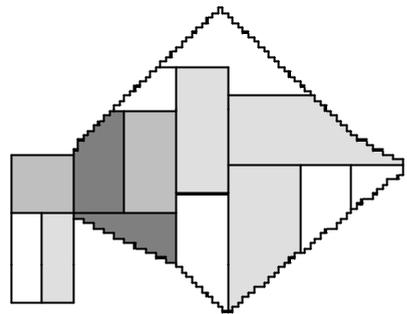
日帰りドライブ型で多い観光内容  
 1位...ドライブ、ツーリング  
 2位...温泉・湯治  
 3位...ショッピング

< 日帰り行楽型 >



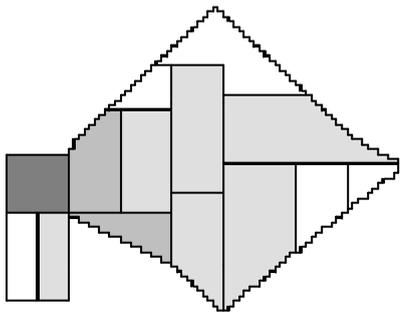
日帰り行楽型で多い観光内容  
 1位...ショッピング  
 2位...映画館、演劇、音楽会  
 3位...ゴルフ・テニス

< 1泊慰安旅行型 >



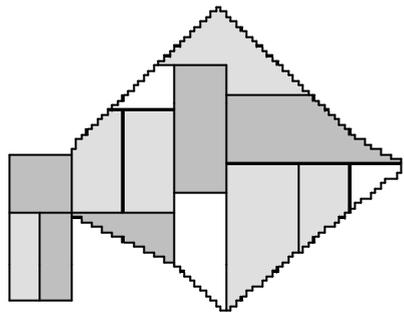
1泊慰安旅行型で多い観光内容  
 1位...温泉・湯治  
 2位...宴会・慰安旅行  
 3位...ドライブ、ツーリング

< 1泊行楽旅行型 >



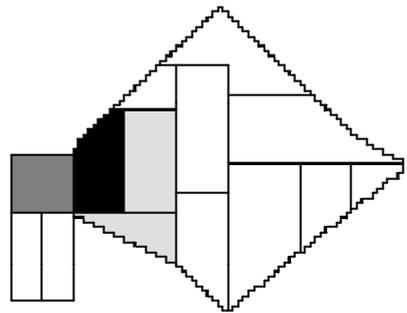
1泊行楽旅行型で多い観光内容  
 1位...温泉・湯治  
 2位...キャンプ、オートキャンプ  
 3位...景勝・旧跡めぐり

< 多数泊旅行型 >



多数泊旅行型で多い観光内容  
 1位...温泉・湯治  
 2位...景勝・旧跡めぐり  
 3位...宴会・慰安旅行

< 全型合計 >



全型合計で多い観光内容  
 1位...温泉・湯治  
 2位...ショッピング  
 3位...お祭り、催し物参加・見物

凡 例 □ : 3%未満    □ : 3%以上10%未満    □ : 10%以上20%未満  
 □ : 20%以上30%未満    □ : 30%以上

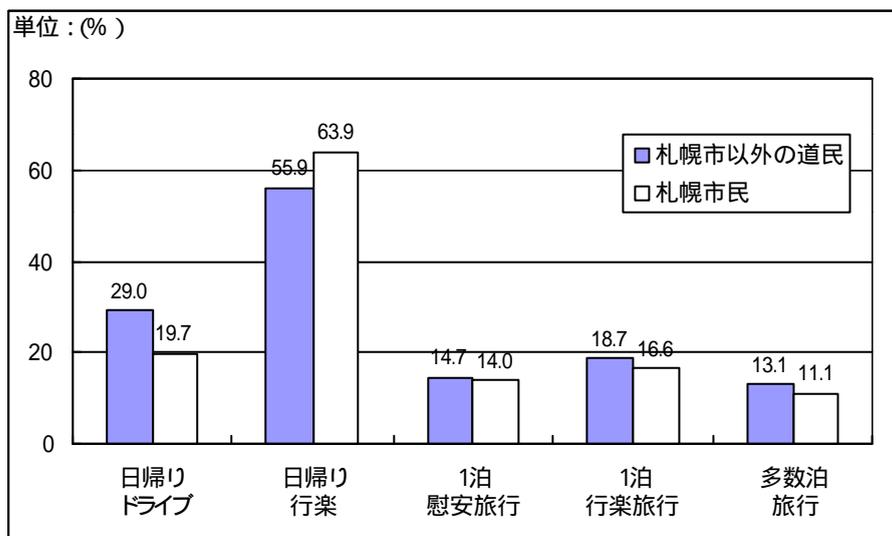
### 1.3. 札幌市以外に居住する道民の観光行動

#### 札幌市以外に居住する道民世帯が行っている観光行動

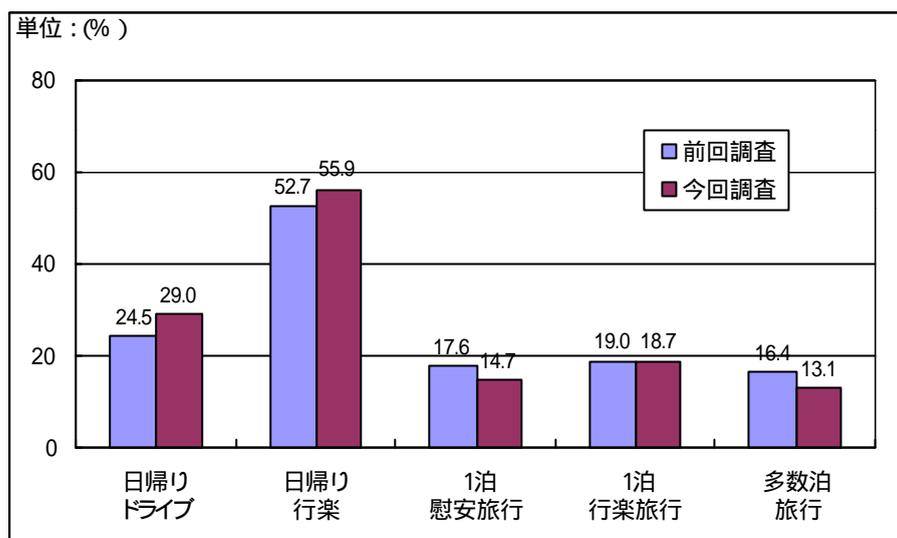
札幌市以外に居住する道民世帯による観光行動で最も多いものは、「日帰り行楽型」であり、1ヶ月に平均55.9%の世帯が行っている。次いで多い観光行動は「日帰りドライブ型」の29.0%となっている。これを札幌市民世帯と比べると、日帰り観光においてドライブ型の観光のウエイトが高いことがうかがえる。また、宿泊観光では、「1泊行楽旅行型」が18.7%、「1泊慰安旅行型」が14.7%、「多数泊旅行型」が13.1%となっており、札幌市民世帯と比較すると、いずれの観光パターンにおいても参加率は上回っている。

また、平成5年から平成6年にかけて実施された前回調査との比較では、年間通しての観光回数が増加し、観光への需要が高まってきている傾向がみられるが、これらは、比較的近距离への日帰り観光に対する需要が高まってきている結果であり、比較的遠距離への観光である宿泊観光が控えられていることがうかがえる。

各形態の観光行動を1ヶ月に行っている道民世帯の割合



## 前回調査との比較

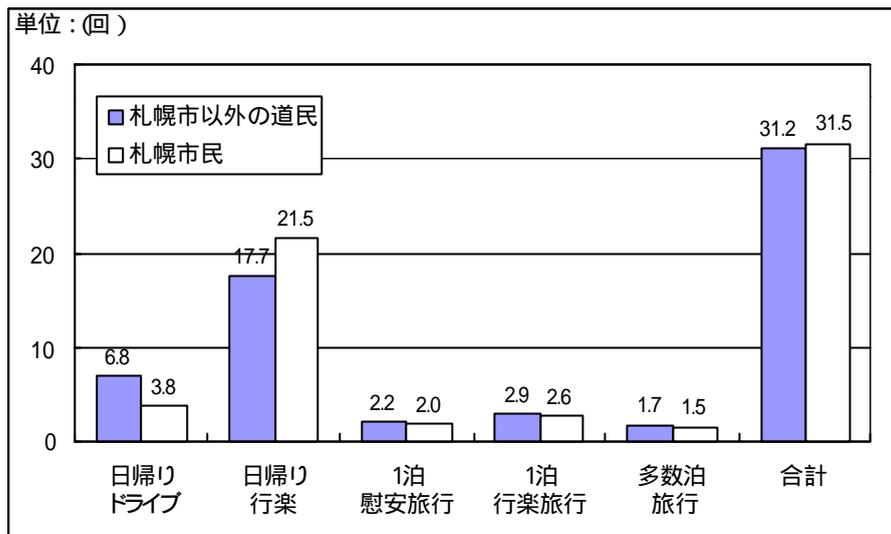


ここで、札幌市以外に居住する道民世帯の1世帯当たり平均観光回数についてみると、年間の平均観光回数は31.2回であり、札幌市民世帯とほぼ同数となっている。

観光パターン別にみると、「日帰り行楽型」が17.7回と最も多く、次いで「日帰りドライブ型」が6.8回と続いており、日帰り観光で総観光回数の8割近くを占めている。宿泊観光では、「1泊行楽旅行型」が2.9回と最も多く、次いで「1泊慰安旅行型」、「多数泊旅行型」と続いている。

これを札幌市民世帯と比較すると、日帰り観光において違いが顕著に現れており、「日帰りドライブ型」のウエイトが高くなっていることがわかる。また、宿泊観光においては、いずれの観光パターンにおいても札幌市以外に居住する道民の観光回数が多くなっている。

## 居住地別にみた1世帯あたり平均観光回数



## 札幌市以外に居住する道民世帯が1年間に札幌市で行う観光行動の回数

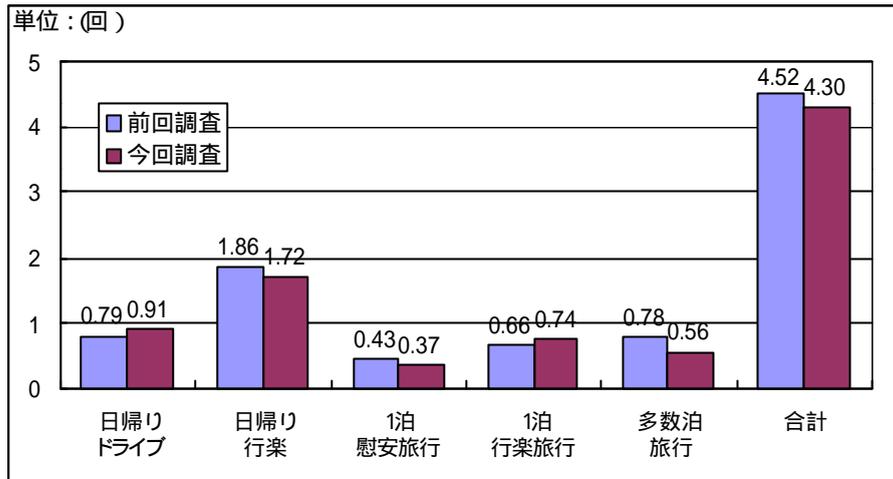
次に、札幌市以外に居住する道民世帯が、1年間に札幌市で行う観光回数についてみると、その平均回数は4.3回であり、総観光回数の13.8%を占めている。

観光パターン別にみると、「日帰り行楽型」が1.7回と最も多く、次いで「日帰りドライブ型」が0.9回となっており、札幌市に訪れる観光のうち日帰り観光の占める割合は6割を超えている。宿泊観光のなかでは「1泊行楽旅行型」が0.7回と最も多く、次いで「多数泊旅行型」が0.6回、「1泊慰安旅行型」が0.4回と続いている。

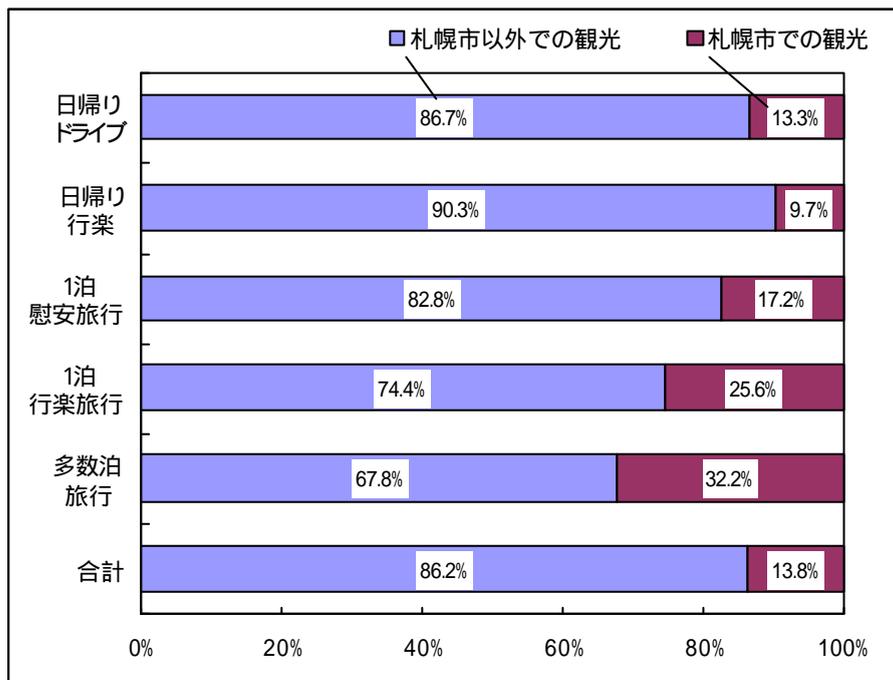
前回の調査との比較をみると、「日帰りドライブ型」および「1泊行楽旅行型」において観光回数が増加しているが、その他の観光パターンにおいては観光回数が減少しており、合計の観光回数では0.2回の減少となっている。

また、観光パターン別に総観光回数に対する札幌市での観光回数の割合をみると、観光期間が長くなるほど札幌市に訪れる割合が高くなっており、「日帰り行楽型」では札幌に訪問する割合が9.7%であったものが、「多数泊旅行型」では32.2%と高くなっている。

道民世帯が1年間に札幌市で行う観光行動の回数



札幌市での観光回数の割合



## 2. 道外からの観光客

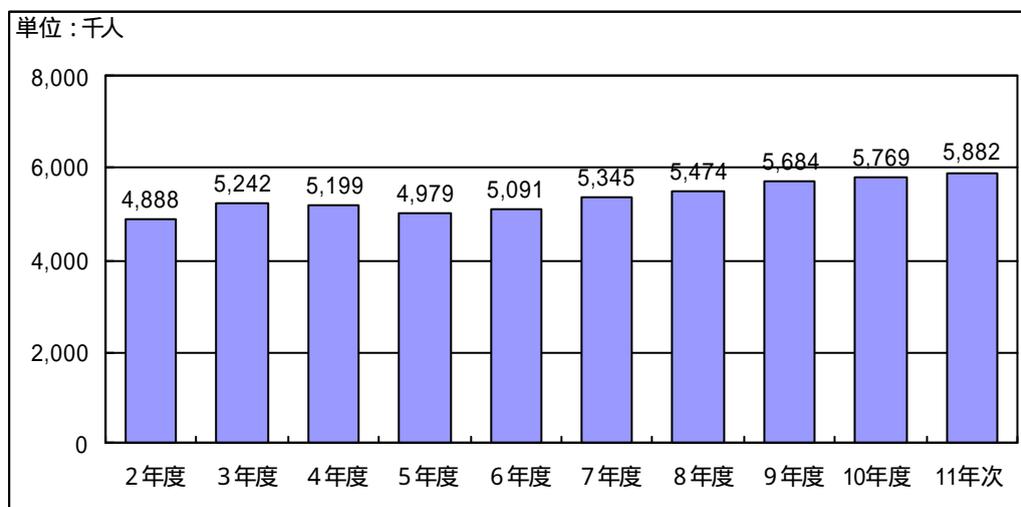
### 2.1. 道外からの観光客数

#### 来道観光客の札幌市への入り込み状況

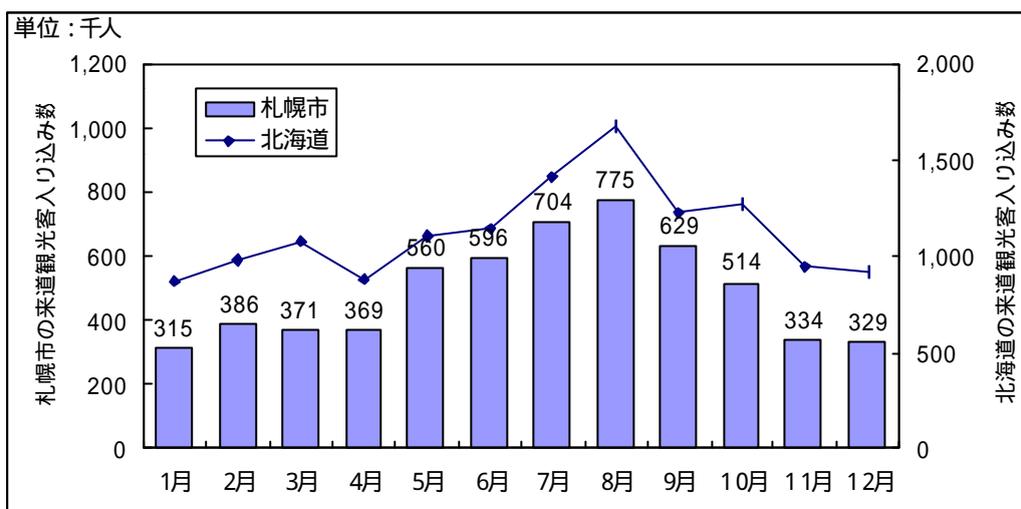
道外から訪れる観光客の札幌市への入り込みは、平成3年から平成5年にかけて減少傾向をみせつつあったが、それ以降は再び増加傾向に転じている。このように札幌市を訪れる道外客は、近年、安定した伸びをみせており、平成11年の入り込み客数は588万人となっている。

また、札幌を訪れる道外客の月別入り込み状況を見ると、春から秋に当たる5月から9月にかけて多くなっており、特に夏休みシーズンとなる8月は78万人と最も入り込みの多い月となっている。反対に、冬季はスキー目的の道外客がみられるものの、春から秋の期間と比べると5割程度の入り込みとなっている。

#### 来道観光客の札幌市への観光入り込みの推移



## 来道観光客の札幌市への月別入り込み状況



## 来道観光客における札幌市の位置付け

来道観光客の道内での訪問先をみると、道央圏および道東圏に集中する傾向がみられるが、とりわけ札幌を訪れる観光客は多く、55.9%が訪れていることとなっている。さらに、このうち8割以上は宿泊をともなう観光となっており、道外客にとって札幌市は観光地としてのみならず、宿泊のベースとして重要な位置付けにあることがうかがえる。

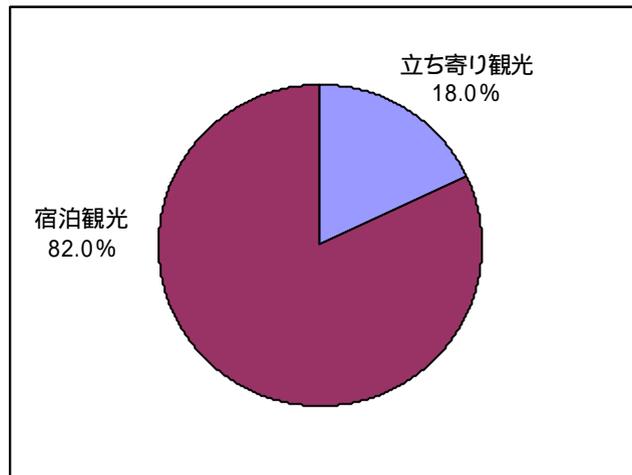
札幌への来訪が多い直接的な要因としては、道央圏に大型観光地が集中していることに加えて、ビジネスの中心地である札幌への仕事目的の客が多いことが考えられる。間接的な要因としては、道央圏には新千歳空港など北海道と道外を結ぶ交通の拠点が集積し、かつ、道内の交通網も道央圏が起点となっており、交通の利便性が高いことが挙げられる。

来道観光客の訪問地比率上位の観光地

訪問地	実数	比率
札幌	516	55.9%
小樽	327	35.4%
網走・北見	302	32.7%
阿寒湖・摩周湖等	291	31.5%
富良野・美瑛	280	30.3%
旭川	254	27.5%
洞爺湖・支笏湖・登別	244	26.4%
知床半島等	235	25.5%
層雲峡・天人峡	192	20.8%
函館・江差	179	19.4%
釧路・厚岸・霧達布	163	17.7%
帯広・十勝川温泉・池田	134	14.5%
大沼	100	10.8%
定山溪	94	10.2%
根室・納沙布・野付半島	94	10.2%

注1) 「 」は道央圏、「 」は道東圏の観光地  
 2) 複数回答

来道観光客の札幌市内での宿泊比率



### 3. 観光による消費

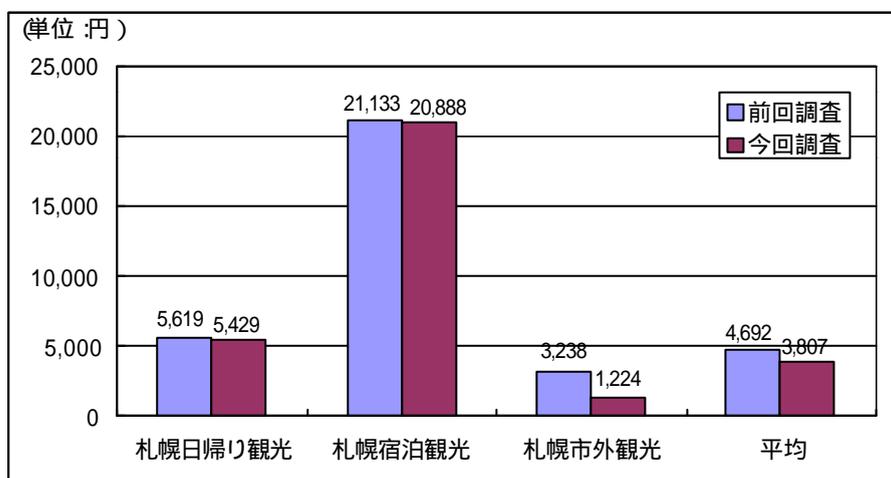
#### 3.1. 札幌市民による札幌市での観光消費額

札幌市民世帯が行った観光のうち札幌市内での1回当たりの平均消費額についてみると、日帰り観光は5,429円、宿泊観光は20,888円、札幌市以外で観光を行う場合は1,224円となっている。札幌市民が行う観光のうち、ほぼ半分が札幌市内でのものとなっているが、そのほとんどが日帰り観光であることから全体平均では3,807円となっており、4,000円を下回る消費となっている。

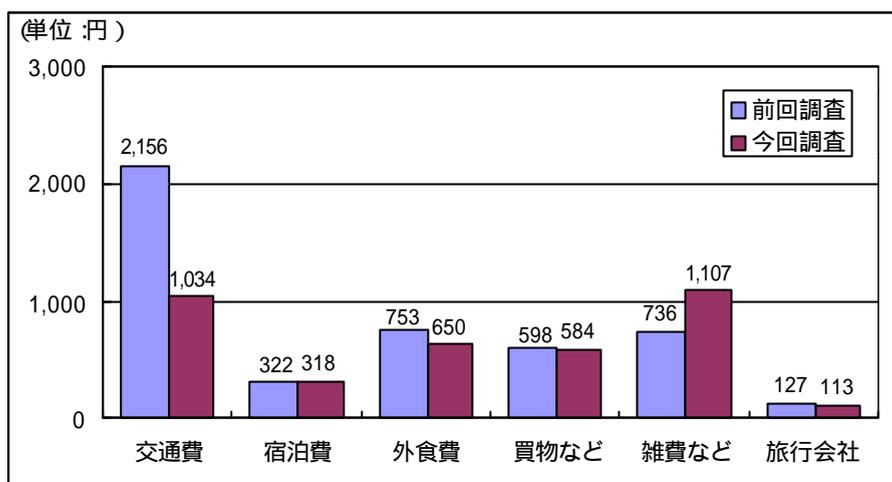
前回の調査との比較では、平均で885円の減少となっている。これを旅行形態別にみると、札幌市を目的とする観光の消費額は日帰り観光、宿泊観光ともに微減にとどまっているが、札幌市以外で観光を行う場合の消費額が大きく減少している。

また、消費項目別にみると、雑費が増加しているものの、これ以外の消費項目は全て減少している。特に、交通費の落ち込みは大きく、その規模は前回の調査の48.0%となっている。

札幌市民が1回の観光行動で札幌市内で消費する金額（観光形態別）



札幌市民が1回の観光行動で札幌市内で消費する金額（消費項目別）



ここで、観光形態別の消費内容についてみると、日帰り観光では、雑費関係の支出が2,270円と最も多く、次いで外食費が1,252円、買物関係が1,031円と続いている。日帰り観光の特徴として、入場料・施設利用料などの含まれる雑費関係のウエイトが高いことが挙げられる。一方、宿泊観光では宿泊費が10,536円と最も多く、次いで交通費が3,915円、買物関係が2,902円と続いている。

また、札幌市外への観光を行う際に札幌市内で消費する内容は、ガソリン代の含まれる交通費が中心であり、1,020円と消費金額の8割を超えている。このように、自動車を利用して市外への観光を行う際には、市内でガソリンを給油して出かけていることがうかがえる。

札幌市民世帯における観光行動1回当たりの消費の内訳

消費項目	札幌市			平均
	札幌日帰り観光	札幌宿泊観光	札幌市以外への観光	
交通費	865	3,915	1,020	1,034
旅行会社マージン	11	609	181	113
宿泊費	-	10,536	-	318
外食費	1,252	1,887	2	650
買物・おみやげ代	1,031	2,902	18	584
雑費・通信費・運送費	2,270	1,039	3	1,107
総計	5,429	20,888	1,224	3,807

注1) 平均の消費額は、各観光パターンの年間回数でウエイト換算した値。

2) 「-」は該当する値がないことを示す。

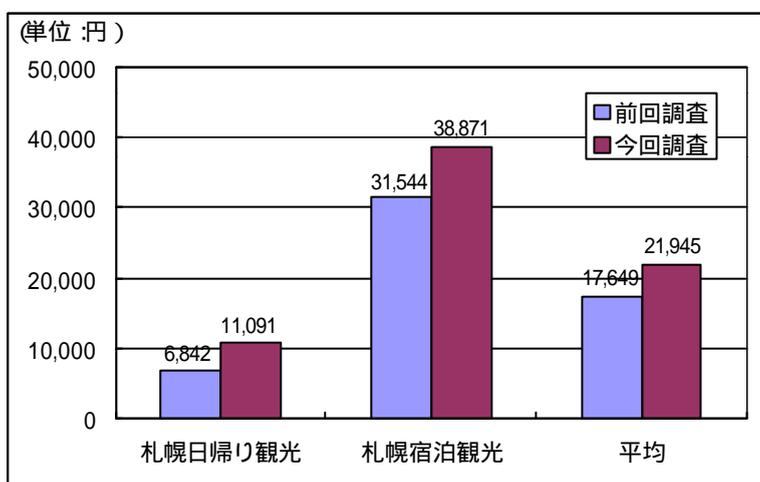
### 3.2. 札幌市以外に居住する道民の観光消費額

札幌市以外に居住する道民世帯が札幌市内で行った観光の1回当たり平均消費額についてみると、札幌への日帰り観光が11,091円、宿泊観光が38,871円となっており、全体平均では21,945円となっている。

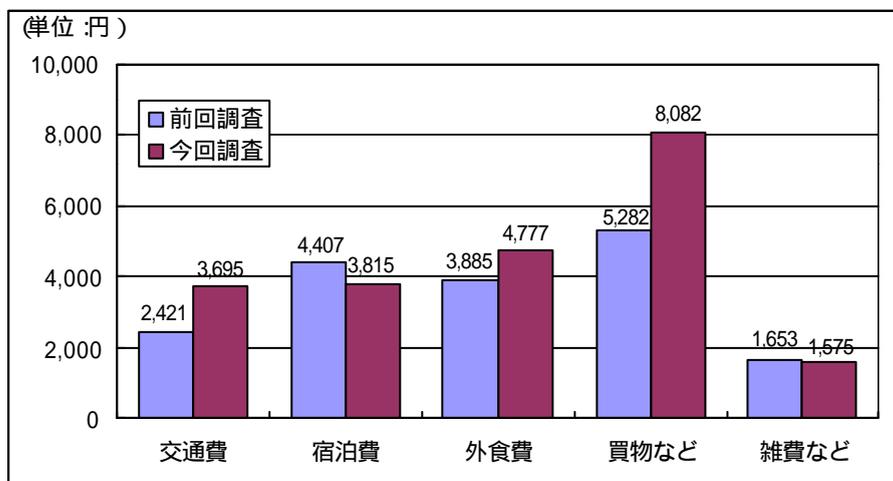
前回の調査との比較では、日帰り観光、宿泊観光ともに増加しており、平均で4,296円の増加となっている。

また、消費項目別にみると、交通費、外食費、買物関係での消費が増加している。とりわけ買物関係の増加は大きく、8,082円と前回調査の1.5倍を超える消費となっている。

道民が1回の観光行動で札幌市内で消費する金額（観光形態別）



道民が1回の観光行動で札幌市内で消費する金額（消費項目別）



ここで、観光形態別の消費項目についてみると、日帰り観光では買物関係が5,643円と最も多く、次いで外食費が2,091円、交通費が1,991円の順となっている。

宿泊観光の場合は、買物関係が11,886円と最も多く、次いで宿泊費が9,765円、外食費が8,966円と続いている。札幌市民による宿泊観光の形態と比較すると、買物関係、外食費への支出が大きく、市外から訪れる観光客の場合は、飲食やショッピングが札幌市への訪問目的として重要な位置を占めていることがうかがえる。

#### 道民世帯における観光行動1回当たりの消費の内訳

単位：円

消費項目	札幌日帰り 観光	札幌宿泊 観光	平均
交通費	1,991	6,352	3,695
旅行会社マージン	-	-	-
宿泊費	-	9,765	3,815
外食費	2,091	8,966	4,777
買物・おみやげ代	5,643	11,886	8,082
雑費・通信費・運送費	1,366	1,902	1,575
総計	11,091	38,871	21,945

注1) 平均の消費額は、各観光パターンの年間回数でウエイト換算した値。

注2) 「-」は該当する値がないことを示す。

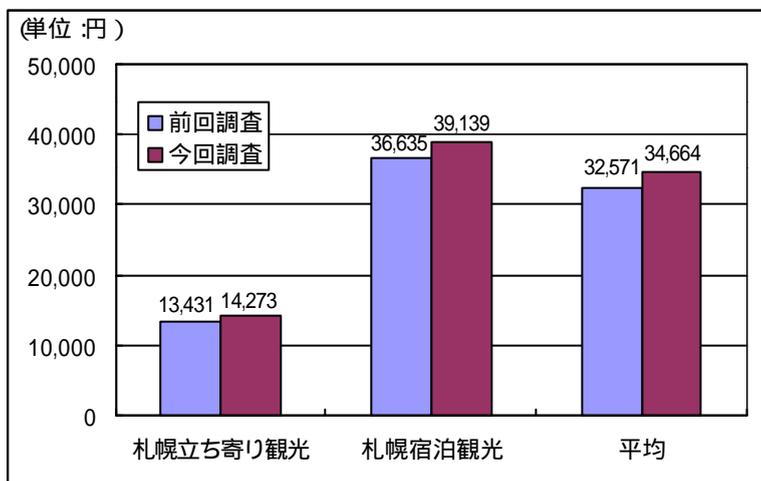
### 3.3. 道外客の観光消費額

道外客1人当たりの札幌市内での平均消費額は、宿泊をとまなわない札幌市への立ち寄り観光が14,273円、札幌市での宿泊観光が39,139円となっており、全体平均では34,664円となっている。

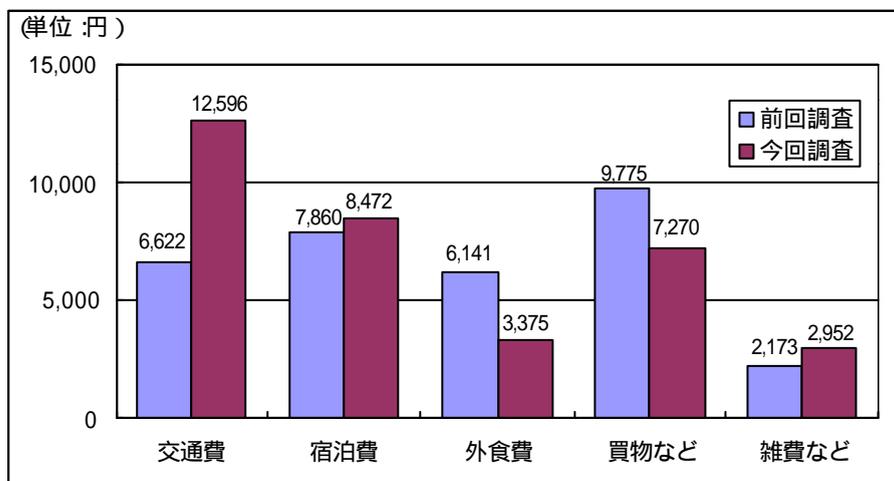
前回調査との比較では、立ち寄り観光および宿泊観光ともに増加しており、全体の平均では2,093円の増加となっている。

また、消費項目別にみると、交通費、宿泊費、雑費関係での消費が増加している。とりわけ交通費の増加は大きく、前回調査からは2倍近くの消費となっている。

道外客1人当たりの札幌市内での観光消費の金額（観光形態別）



道外客1人当たりの札幌市内での観光消費の金額（消費項目別）



観光形態別の消費項目についてみると、立ち寄り観光では交通費が6,355円と最も多く、次いで買物関係が4,350円、雑費関係が2,159円の順となっている。宿泊観光の場合は、交通費が13,965円と最も多く、次いで宿泊費が10,331円、買物関係が7,911円と続いている。

立ち寄り観光、宿泊観光ともに、バス、タクシー料金やJR料金などの含まれる交通費が最も多くなっているが、このうち、JR料金については札幌市から道内他地域へ移動する際の消費分が多く含まれているとみられ、札幌市は道外客の道内周遊観光において交通の拠点としても重要な位置付けにあることがうかがえる。

また、雑費関係についてみると、立ち寄り観光、宿泊観光ともにレンタカー料金が大きなウエイトを占めており、道内観光を行う際の移動手段として、レンタカーを利用する機会が多くなってきていることがうかがえる。

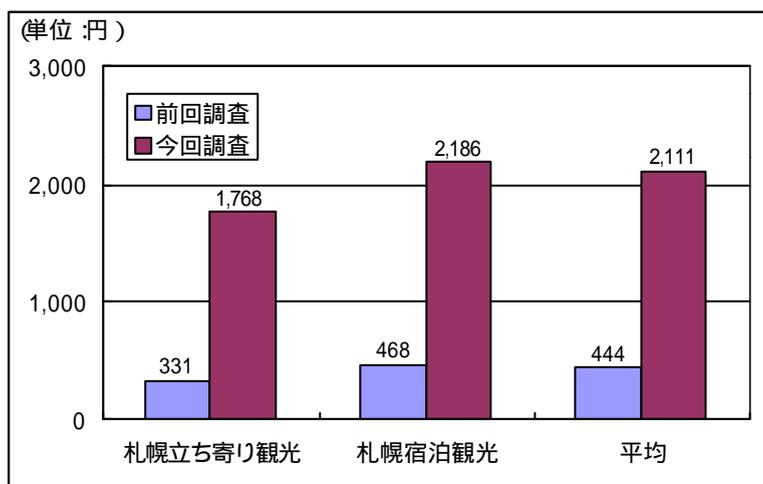
#### 道外客の札幌市内での観光消費の内訳

単位：円

消費項目	札幌立ち寄り観光	札幌宿泊観光	平均
交通費	6,355	13,965	12,596
宿泊費	-	10,331	8,472
外食費	1,409	3,806	3,375
買物・おみやげ代	4,350	7,911	7,270
雑費・通信費・運送費	2,159	3,126	2,952
総計	14,273	39,139	34,664

注) 平均消費額は、各旅行目的別来道者数でウエイト換算した値。

#### レンタカー料金の1人当たり平均消費額



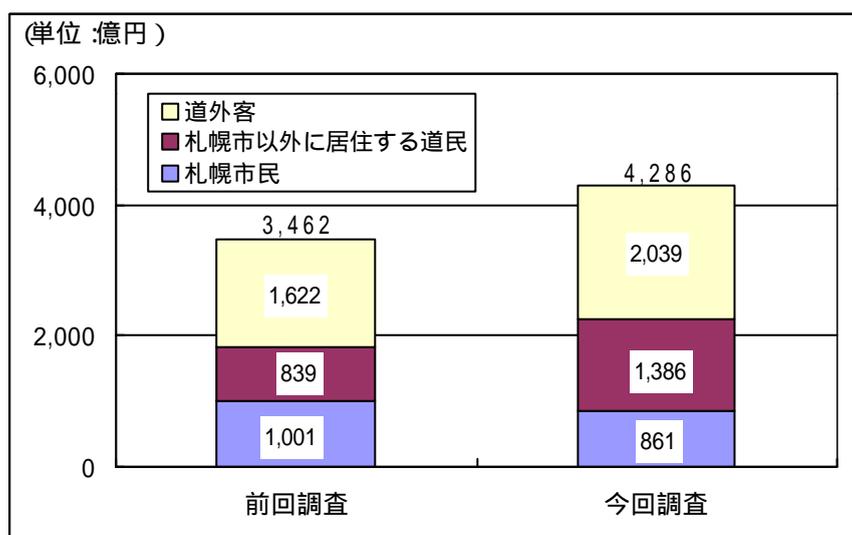
### 3.4. 札幌市での総観光消費額

札幌市民世帯が1年間に行う観光行動にともない札幌市内で消費する金額は861億円と推計される。これは、それぞれの観光形態ごとの1回当たり平均観光消費額に1年間の観光回数を乗じ、さらに札幌市の全世帯数72万世帯（平成7年国勢調査による）を乗じたものの総和として求められる。同様に、札幌市以外に居住する道民世帯による札幌市内での消費額は1,386億円と推計される。

また、道外から訪れる人たちが、札幌市内での観光で1年間に消費する金額は2,039億円と推計される。これは、観光形態別の平均観光消費額に1年間のそれぞれの観光客数を乗じたものの総和である。

これらの結果、1年間に札幌市内で観光に消費される総額は4,286億円となる。前回調査と比較すると、札幌市民による観光消費額は減少したものの、札幌市以外に居住する道民、道外客による観光消費額が増加しており、総観光消費額では826億円の増加となっている。

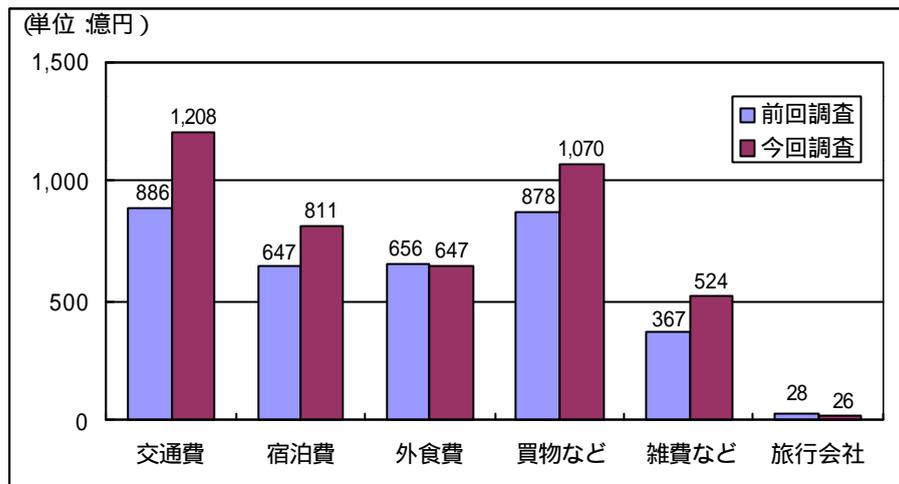
1年間に札幌市内で観光行動にともない消費された金額



消費内容別にみると、交通費が1,208億円と最も多く、総額の28.2%を占めている。次いで買物関係が1,070億円（同25.0%）、宿泊費が811億円（同18.9%）となっている。

前回調査と比較すると、外食費および旅行会社マージンを除いた全ての項目において消費額が増加している。消費項目別の構成に大きな変化はみられないが、バス、タクシー料金の含まれる交通費、およびレンタカー料金の含まれる雑費関係のウエイトが大きくなってきている。

## 札幌市における観光消費の内容



ここで、道民による消費についてみると、札幌市は市外に居住する道民に対して、都市観光の場、多数泊観光の宿泊ベース、あるいは定山溪に代表される温泉地など多様な観光内容を提供しており、市の周辺地域の道民にとっては日帰り観光、遠隔地域の道民にとっては宿泊観光の訪問地として重要な位置を占めており、外食費や買物などをはじめとする多くの消費が市内でみられている。札幌市民についてみると、観光回数のうち5割以上は目的地が市外であり、かつ消費単価の高い宿泊観光ほど市外で行われていることから、道民による札幌市内での観光消費は、道外客ほど札幌市に集中する傾向はみられていない。

## 札幌市における観光行動で1年間に消費される総額の内訳

単位：億円

消費項目	道民観光消費額	札幌市以外に居住		道外客観光消費額	総観光消費額
		札幌市民	札幌市以外に居住		
交通費	467	234	233	741	1,208
旅行会社マージン	26	26	-	-	26
宿泊費	313	72	241	498	811
外食費	449	147	302	198	647
買物・おみやげ代	643	132	510	428	1,070
雑費・通信費・運送費	350	250	99	174	524
総計	2,247	861	1,386	2,039	4,286

注)「-」は該当する値がないことを示す。

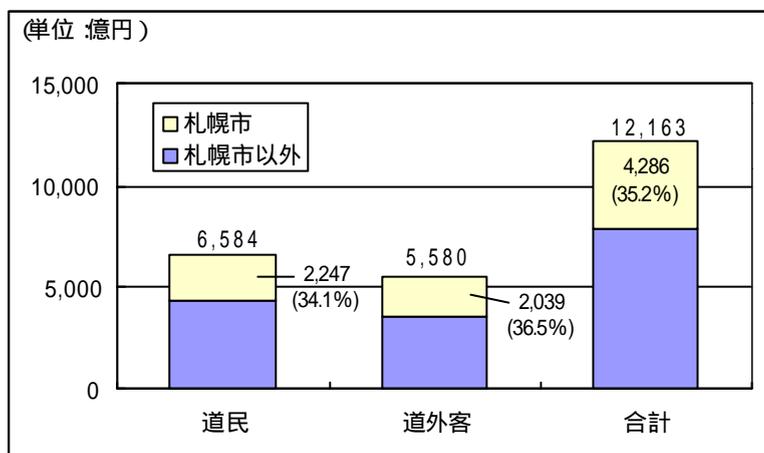
### 3.5. 北海道に占める札幌市での観光の位置付け

1年間に道内で支出される総観光消費額は12,163億円であり、このうち、35.2%に相当する4,286億円が札幌市内で消費されている。

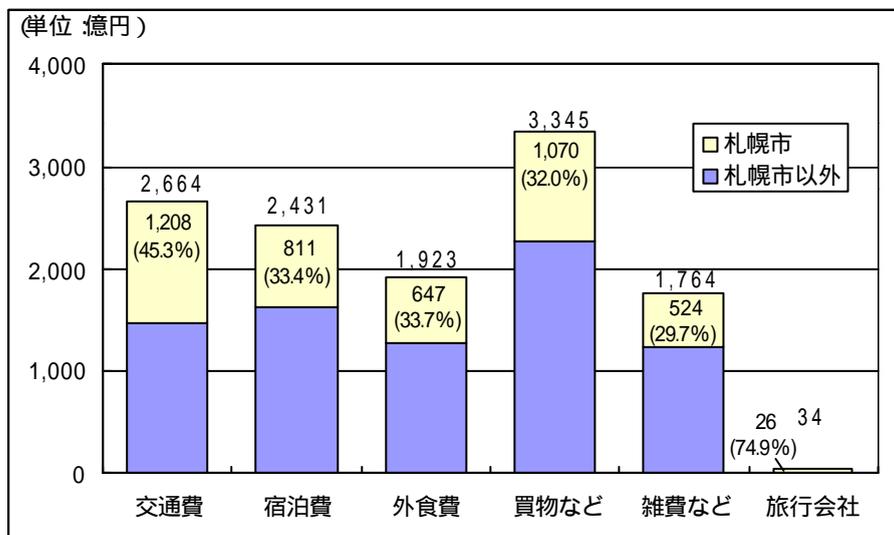
道民、道外客別に全道における札幌市での消費割合をみると、道民34.1%、道外客36.5%となっており、両者の間にそれほど大きな差はみられない。

消費項目別の札幌市内での消費割合についてみると、交通費において札幌市内での消費割合が高くなっている。これは、札幌市の近隣に道外客の発着が最も多い新千歳空港があることに加えて、高速道路、JR、道内航空路はともに札幌市を起点として全道に放射状にのびているため、札幌市が道内観光において交通の要所となっていることがうかがえる。

全道に占める札幌市内での観光消費額の割合



全道に占める札幌市内での観光消費額の割合 (消費項目別)



## 4 . 観光と経済波及効果

### 4 . 1 . 生産波及効果

#### 生産波及効果について

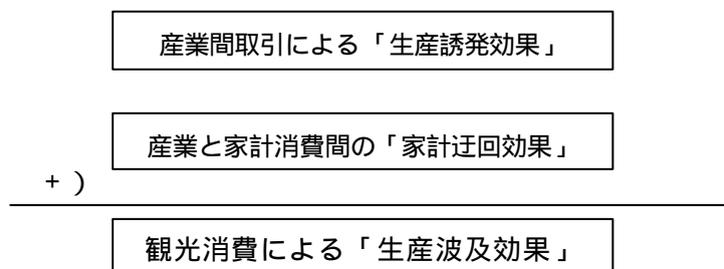
道民および道外客の観光行動にともなう消費は、その消費が直接行なわれた産業にのみ利益が生じるわけではない。例えば、小売業の売上は卸売業を通じて製造業へ、また、製造業からもその商品を生産するために必要な原材料やエネルギーを供給している他の産業へ及ぶことになる。このように、一つの商品についてみても、それに対する消費はさまざまな産業に波及している。こうした産業間の連関状況を踏まえた道内各産業に対する総合的な生産効果を生産波及効果という。なお、分析にあたっては平成2年札幌市産業連関表（札幌市、平成7年）を用いている。

生産波及効果の計測にあたっては、より現実の経済循環に近い総合的な効果を把握するために産業間連鎖および産業と家計消費間の連鎖の両面について分析を行っている。

まず、産業間の連鎖の面で見ると、財・サービスの生産に関する産業間の取引により各産業に誘発される効果を「生産誘発効果」といい、その効果の大きさを生産誘発額と呼ぶ。一方、産業と家計消費との連鎖の面で見ると、観光消費によって誘発された生産は、その産業で働いている人々の所得に反映され、この分の個人所得はさらに家計等の消費を通じて産業間へ波及することになる。このような経路によって誘発される効果を、ここでは「家計迂回効果」という。これは、家計も産業と同様に労働という生産物を産出して各産業へ売り渡すといった循環的な商品取引を行っているものとみなされるからである。

したがって、観光消費による生産波及は「生産誘発効果」と「家計迂回効果」を合わせたものからなり、この「生産波及効果」の大きさを生産波及額と呼ぶ。

#### 生産波及効果

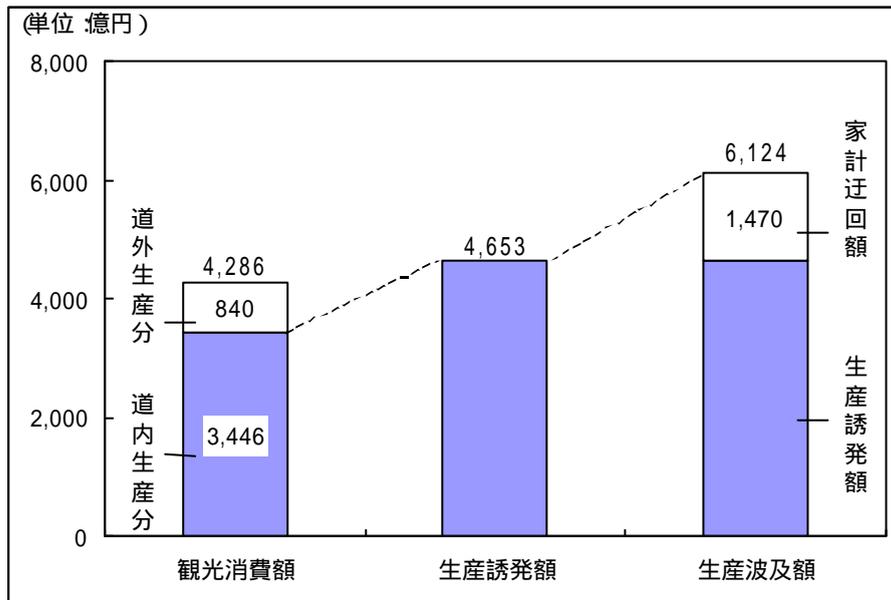


## 観光消費による生産波及効果

道民および道外客の総観光消費4,286億円によって引き起こされる生産波及効果は6,124億円と推計され、このうち産業間取引による生産誘発額は4,653億円、家計消費を迂回することによる効果は1,470億円と推計される。つまり、道民や道外から訪れる人々が1年間に北海道内で観光行動を行なって消費した総額4,286億円は、さまざまな産業を経由して4,653億円の商いになり、このうち道民の所得に反映した分がさらに1,470億円の生産を生み、全体では6,124億円規模の経済活動を生み出していることとなる。

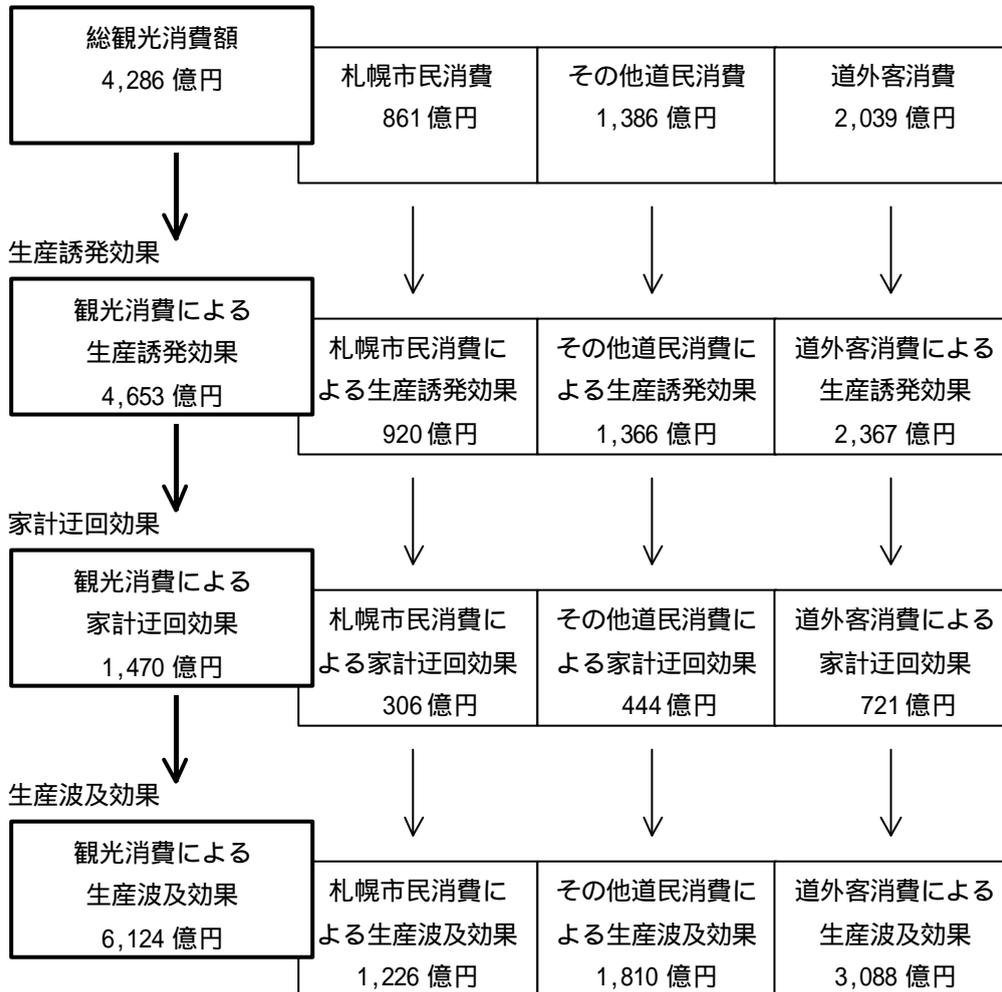
前回調査と比較すると生産波及額は1,747億円増加したことになり、総消費額に対する生産波及額の比率も1.26倍から1.43倍に拡大している。

観光消費額と生産波及額



## 観光消費による生産波及効果

### 観光消費



注) 四捨五入のため内訳の計は必ずしも総額に一致しない。

観光消費が道内各産業にもたらした生産波及効果

単位 億円、%

産 業	生産波及効果									
	札幌市民		その他道民		道外客		計		(参考)前回	
		構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
農 林 水 産 業	1	0.1	2	0.1	3	0.1	6	0.1	12	0.3
製造業および鉱業	80	6.5	155	8.5	187	6.1	422	6.9	396	9.1
建 設 業	20	1.6	22	1.2	41	1.3	84	1.4	104	2.4
電気・ガス・水道業	27	2.2	40	2.2	67	2.2	134	2.2	118	2.7
卸 売 業	8	0.7	16	0.9	19	0.6	43	0.7	34	0.8
小 売 業	114	9.3	244	13.5	273	8.8	631	10.3	377	8.6
金融・保険業	56	4.5	78	4.3	182	5.9	315	5.2	167	3.8
不 動 産 業	68	5.5	98	5.4	155	5.0	321	5.2	276	6.3
運 輸 業	180	14.7	229	12.7	786	25.5	1,196	19.5	718	16.4
通 信 業	15	1.2	24	1.3	46	1.5	85	1.4	87	2.0
サ ー ビ ス 業	656	53.6	899	49.7	1,327	43.0	2,882	47.1	2,083	47.6
公 務	1	0.1	2	0.1	2	0.1	5	0.1	4	0.1
合 計	1,226	100.0	1,810	100.0	3,088	100.0	6,124	100.0	4,377	100.0

注) 四捨五入のため内訳の計は必ずしも総額に一致しない。

生産誘発係数

産 業	札幌市民		その他道民		道外客		計	
	生産誘発	生産波及	生産誘発	生産波及	生産誘発	生産波及	生産誘発	生産波及
農 林 水 産 業	0.0006	0.0010	0.0016	0.0021	0.0012	0.0017	0.0012	0.0016
製造業および鉱業	0.0665	0.0931	0.1181	0.1505	0.0769	0.1082	0.0861	0.1166
建 設 業	0.0167	0.0232	0.0140	0.0219	0.0164	0.0240	0.0158	0.0232
電気・ガス・水道業	0.0211	0.0314	0.0266	0.0390	0.0267	0.0388	0.0254	0.0371
卸 売 業	0.0062	0.0093	0.0122	0.0160	0.0073	0.0109	0.0084	0.0119
小 売 業	0.0735	0.1319	0.1668	0.2378	0.0892	0.1577	0.1075	0.1743
金融・保険業	0.0433	0.0647	0.0498	0.0759	0.0799	0.1050	0.0627	0.0872
不 動 産 業	0.0178	0.0787	0.0217	0.0957	0.0183	0.0896	0.0191	0.0888
運 輸 業	0.1883	0.2091	0.1979	0.2232	0.4301	0.4544	0.3066	0.3304
通 信 業	0.0088	0.0175	0.0128	0.0233	0.0163	0.0264	0.0135	0.0234
サ ー ビ ス 業	0.6252	0.7621	0.7083	0.8748	0.6062	0.7669	0.6397	0.7964
公 務	0.0000	0.0012	0.0000	0.0015	0.0000	0.0014	0.0000	0.0014
合 計	1.0680	1.4230	1.3298	1.7616	1.3684	1.7851	1.2860	1.6922

注1) 「生産誘発」は産業間取引による生産誘発効果を示す。

2) 「生産波及」は生産誘発効果と家計迂回効果の両方による効果を示す。

3) 係数は最終需要額に対する生産波及額または生産誘発額の比である。

## 産業別の生産波及効果

総観光消費4,286億円がもたらす生産波及効果について産業別にみると、直接的に観光の場面に触れることの多いサービス業が2,882億円と最も大きく、波及総額の47.1%を占めている。次いで、運輸業が1,196億円（同19.5%）、小売業が631億円（同10.3%）、製造業が422億円（同6.9%）と推計される。前回調査と比較すると、小売業と運輸業における波及額が大きくなっている。

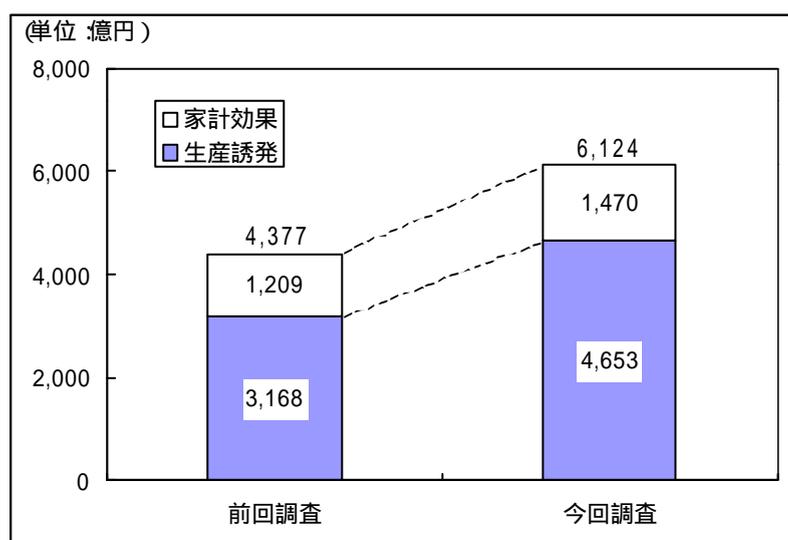
さらに、最も波及効果が大きいサービス業について部門別にみると、宿泊業、飲食業、娯楽サービス業で波及効果が大きく、それぞれの波及額は817億円、711億円、427億円となっており、これら3部門でサービス業への波及額の93.2%を占めている。

## 観光消費がサービス業にもたらした生産波及効果

単位 億円、%

サービス部門	生産波及効果							
	札幌市民		その他道民		道外客		計	
		構成比		構成比		構成比		構成比
宿泊業	73	13.9	243	34.0	501	58.4	817	38.9
飲食業	160	30.4	321	45.0	230	26.8	711	33.9
娯楽サービス業	261	49.6	99	13.8	67	7.8	427	20.4
その他	32	6.1	51	7.2	60	7.0	144	6.8
合計	528	100.0	714	100.0	858	100.0	2,100	100.0

## これまでの調査における生産波及効果



## 4 . 2 . 所得形成効果

平成11年において、道民および道外客が行った観光消費は、札幌市の産業経済に6,124億円の生産を誘発すると推計されたが、この生産活動に対応する個人や企業等の所得は3,626億円になると推計される(ここでの所得は道民経済計算における道内総生産の概念に沿ったものである)。このうち、産業間取引で誘発された生産に対応する所得は2,672億円、家計迂回で誘発された生産に対応する所得は953億円と推計される。また、札幌市民、その他道民および道外客の消費による所得形成額はそれぞれ733億円、1,044億円、1,848億円と推計される。

前回調査と比較すると、所得形成額は1,337億円増加し、総消費額に対する比率も所得率の高いサービス業や小売業への生産波及が大きくなったことを要因として、66.1%から84.6%まで拡大している。

## 観光消費による所得形成効果

### 観光による消費

札幌市内総観光消費額		4,286 億円	
札幌市民	861 億円	その他道民	1,386 億円
		道外客	2,039 億円

### 産業間取引

生産誘発額	4,653 億円	生産誘発による所得形成	2,672 億円
		札幌市民	535 億円
		その他道民	756 億円
		道外客	1,381 億円

### 家計消費

家計迂回額	1,470 億円	家計迂回による所得形成	953 億円
		札幌市民	198 億円
		その他道民	288 億円
		道外客	467 億円

### 生産波及効果

生産波及効果	6,124 億円	生産誘発による所得形成	3,626 億円
		札幌市民消費による所得形成	733 億円
		その他道民消費による所得形成	1,044 億円
		道外客消費による所得形成	1,848 億円

注) 四捨五入のため内訳の計は必ずしも総額に一致しない。

観光消費が道内各産業にもたらした所得形成効果

単位 億円、%

産 業	所得形成効果								(参考)前回	
	札幌市民		その他道民		道外客		計			
		構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
農 林 水 産 業	0	0.1	1	0.1	2	0.1	3	0.1	6	0.3
製 造 業 お よ び 鉱 業	29	4.0	55	5.2	65	3.5	149	4.1	150	6.6
建 設 業	9	1.2	10	1.0	19	1.0	37	1.0	39	1.7
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	16	2.2	24	2.3	40	2.1	79	2.2	77	3.4
卸 売 業	5	0.7	11	1.0	12	0.7	29	0.8	21	0.9
小 売 業	79	10.8	170	16.3	190	10.3	439	12.1	254	11.1
金 融 ・ 保 険 業	39	5.4	55	5.3	129	7.0	224	6.2	117	5.1
不 動 産 業	58	7.9	84	8.1	133	7.2	275	7.6	229	10.0
運 輸 業	101	13.8	136	13.0	500	27.1	737	20.3	302	13.2
通 信 業	10	1.4	17	1.6	33	1.8	61	1.7	60	2.6
サ ー ビ ス 業	385	52.5	481	46.0	724	39.2	1,589	43.8	1,031	45.0
公 務	1	0.1	1	0.1	2	0.1	4	0.1	3	0.1
合 計	733	100.0	1,044	100.0	1,848	100.0	3,626	100.0	2,289	100.0

注1) 四捨五入のため内訳の計は必ずしも総額に一致しない。

2) 表中の「0」は単位に満たないことを示す。

産業別の所得形成効果

観光消費が誘発した生産波及効果に対応する所得形成効果について産業別にみると、サービス業が1,589億円と最も大きく、全産業での所得形成額の43.8%を占めていると推計される。次いで、運輸業の737億円(同20.3%)、小売業の439億円(同12.1%)と推計される。前回調査と比較すると、運輸業とサービス業における所得が大きくなっている。

さらに、最も波及効果が大きいサービス業について部門別にみると、宿泊業、飲食業、娯楽サービス業で大きく、それぞれの所得は410億円、344億円、286億円となっている。

また、道民消費と道外客消費による所得形成効果を比較すると、形成される所得は、道外客の観光消費によるものがわずかながら上回っている。産業を個別にみると、サービス業においては道民消費による効果が、また運輸業においては道外客消費による効果が大きくなっている。

## 観光消費がサービス部門にもたらした所得形成効果

単位：億円、%

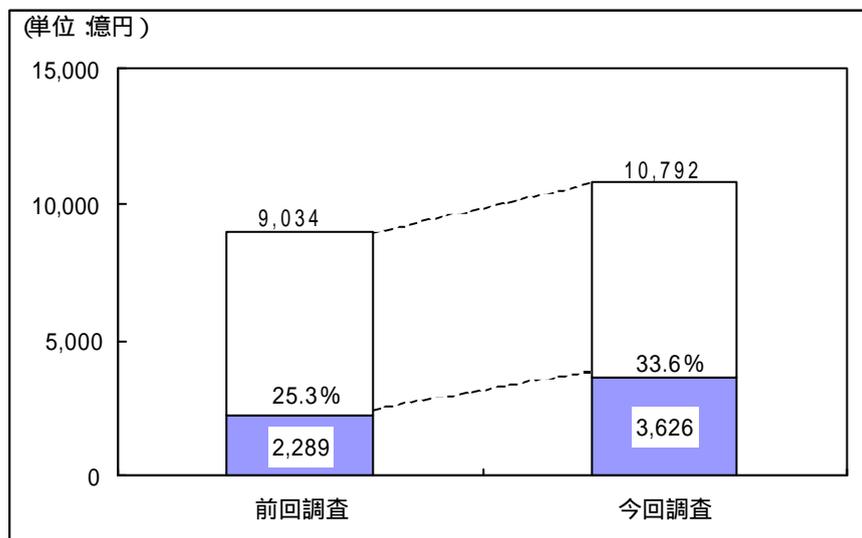
サービス部門	所得形成効果							
	札幌市民		その他道民		道外客		計	
		構成比		構成比		構成比		構成比
宿泊業	37	3.3	122	32.9	251	57.9	410	21.4
飲食業	78	7.0	155	41.9	111	25.6	344	17.9
娯楽サービス業	175	15.7	66	17.8	45	10.4	286	14.9
その他	821	74.0	27	7.4	27	6.2	876	45.7
合計	1,110	100.0	370	100.0	434	100.0	1,915	100.0

## 観光消費による所得形成の大きさ

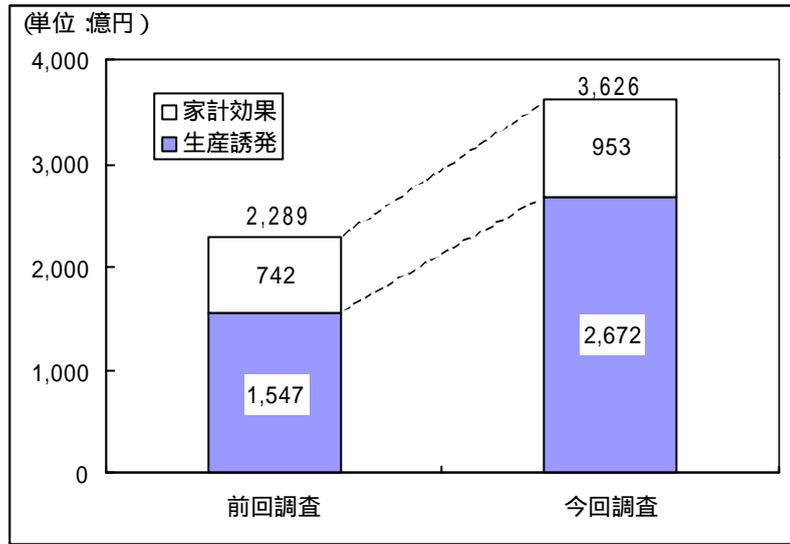
平成11年において、道民および道外客が行った観光消費により、道内の各産業に誘発された所得は3,626億円になると推計された。これは北海道全体での所得10,792億円に対して33.6%を占めている。

なお、前回調査時における比率は25.3%であり、道内経済に占める札幌市観光の位置付けは前回調査時点よりも経済的位置付けが高まっていることがわかる。

## 札幌市が占める観光消費による経済効果の大きさ



これまでの調査における所得形成効果



## 4.3. 経済規模と就業者数

### 就業者数の計測について

産業的な構造や規模などを把握する一つの目安として、観光による経済波及効果から就業者数を算出した。したがって、この数は実際に仕事に携わっている人数とは異なる。

就業者数を求めるための指標として、ここでは純生産（本調査で用いている所得から固定資本減耗引当分を除いたもの）を使用している。すなわち、観光客の消費により形成された純生産を、道内における産業別就業者数1人当たり純生産で除することによって、就業者数を求めている。

### 観光消費による経済効果に相当する就業者数

観光消費による生産波及額6,124億円は2,760億円の純生産を形成すると推計される。このうち、札幌市民消費により574億円が、その他道民消費により833億円が、道外客消費により1,353億円が形成されたと推計される。この結果は、観光客の需要に応えるための財・サービスの生産活動に就業する人の数に換算すると、約4万1千人に相当する。なお、この数は札幌市の就業者数85万人の4.9%に当たる。

産業別についてみると、多い業種からサービス業の1万9千人、運輸・通信業の8千人、商業の7千人、鉱業および製造業の3千人の順となっている。

前回調査と比較すると、全体で約7千人の増加となっている。

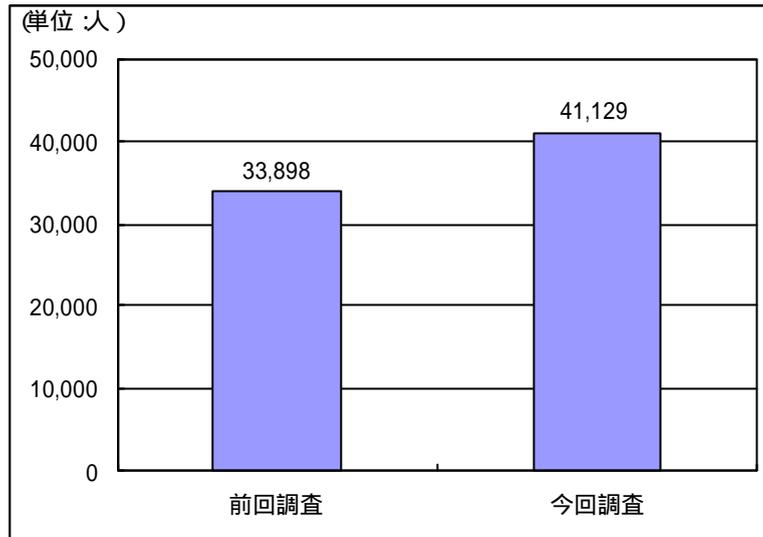
### 観光消費による経済効果に相当する就業者数

単位 億円、人

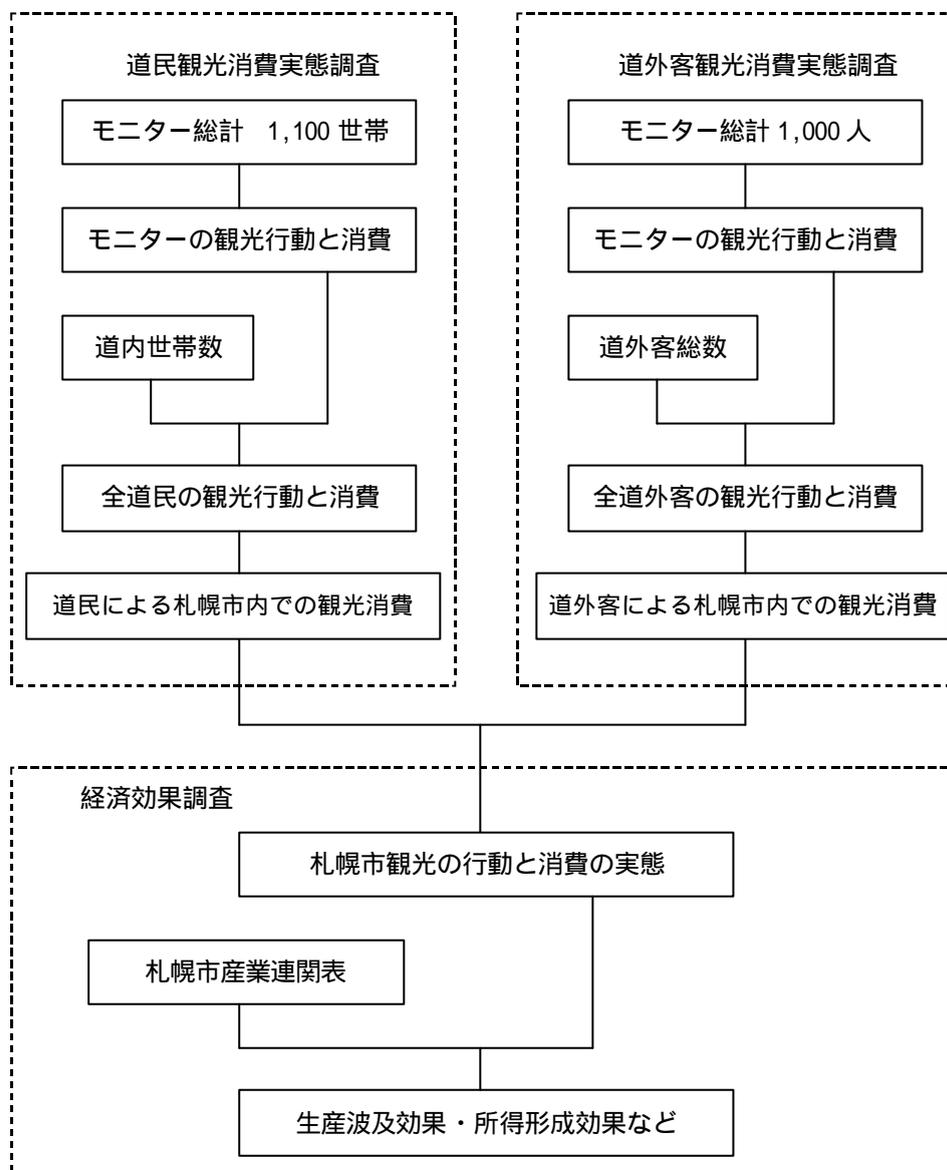
産業	純生産				就業者数			
	計	札幌市民消費	道民消費	道外客消費	計	札幌市民消費	道民消費	道外客消費
農林水産業	3	0	1	1	285	41	102	142
鉱業および製造業	141	27	51	62	2,969	577	1,086	1,306
建設業	34	8	9	17	602	143	161	298
電気・ガス・水道業	62	12	18	31	247	49	73	125
商業	407	73	157	176	7,019	1,266	2,715	3,038
金融・保険業	184	33	46	106	1,966	348	486	1,132
不動産業	180	38	55	87	454	96	139	219
運輸・通信業	477	69	94	314	8,370	1,217	1,643	5,510
サービス業	1,269	312	400	557	19,180	4,711	6,045	8,424
公務	4	1	1	2	37	8	11	18
計	2,760	574	833	1,353	41,129	8,456	12,461	20,212

注1) 表中の「0」は単位に満たないことを示す。

これまでの調査における就業者数



## 付 1 . 調査方法



## 付 2 . 調査期間および調査日時

### 道民世帯

平成11年（1999年）1月～12月

### 道外客

#### （第1期）

新千歳空港：平成11年2月8日、平成11年2月22日

旭川空港：平成11年2月10日

女満別空港：平成11年2月12日

J R：平成11年2月6日、平成11年2月27日

#### （第2期）

新千歳空港：平成11年6月1日

旭川空港：平成11年6月3日

女満別空港：平成11年6月5日

J R：平成11年6月7日、平成11年6月8日

#### （第3期）

新千歳空港：平成11年8月2日

旭川空港：平成11年8月9日

女満別空港：平成11年8月4日

J R：平成11年8月6日、平成11年8月7日

八戸港：平成11年7月29日、平成11年7月30日

#### （第4期）

新千歳空港：平成11年10月25日

旭川空港：平成11年10月20日

女満別空港：平成11年10月22日

J R：平成11年10月15日、平成11年10月16日

### 付 3 . 観光モニターの構成

#### 道民世帯

	発送数	地域構成	H7国勢調査 の構成
道央圏	654	59.5%	60.4%
道南圏	96	8.7%	9.1%
道北圏	144	13.1%	12.2%
オホーツク圏	64	5.8%	6.0%
十勝圏	71	6.5%	6.0%
釧路・根室圏	71	6.5%	6.3%
計	1,100	100.0%	100.0%

#### 道外客

	配布数	構成比 (%)
新千歳空港	360	36.0
旭川空港	170	17.0
女満別空港	170	17.0
J R	200	20.0
フェリー	100	10.0
計	1,000	100.0

## 付 4 . 回収結果

道民観光消費モニター回収結果

	第 1 期 ( 1 ~ 3 月 )	第 2 期 ( 4 ~ 6 月 )	第 3 期 ( 7 ~ 9 月 )	第 4 期 ( 10 ~ 12 月 )
回収票数	340	334	324	312
回収率	97.1%	95.4%	92.6%	89.1%
有効票数	307	316	312	284
有効回収率	87.7%	90.3%	89.1%	81.1%

道民観光パターンモニター回収結果

	第 1 期 ( 1 ~ 3 月 )	第 2 期 ( 4 ~ 6 月 )	第 3 期 ( 7 ~ 9 月 )	第 4 期 ( 10 ~ 12 月 )
回収票数	710	703	704	706
回収率	94.7%	93.7%	93.9%	94.1%
有効票数	653	663	679	646
有効回収率	87.1%	88.4%	90.5%	86.1%

道外客観光消費モニター回収結果

	配布数	回収数	回収率
新千歳空港	360	325	90.3%
旭川空港	170	163	95.9%
女満別空港	170	156	91.8%
J R	200	186	93.0%
フェリー	100	90	90.0%
合計	1,000	923	92.3%